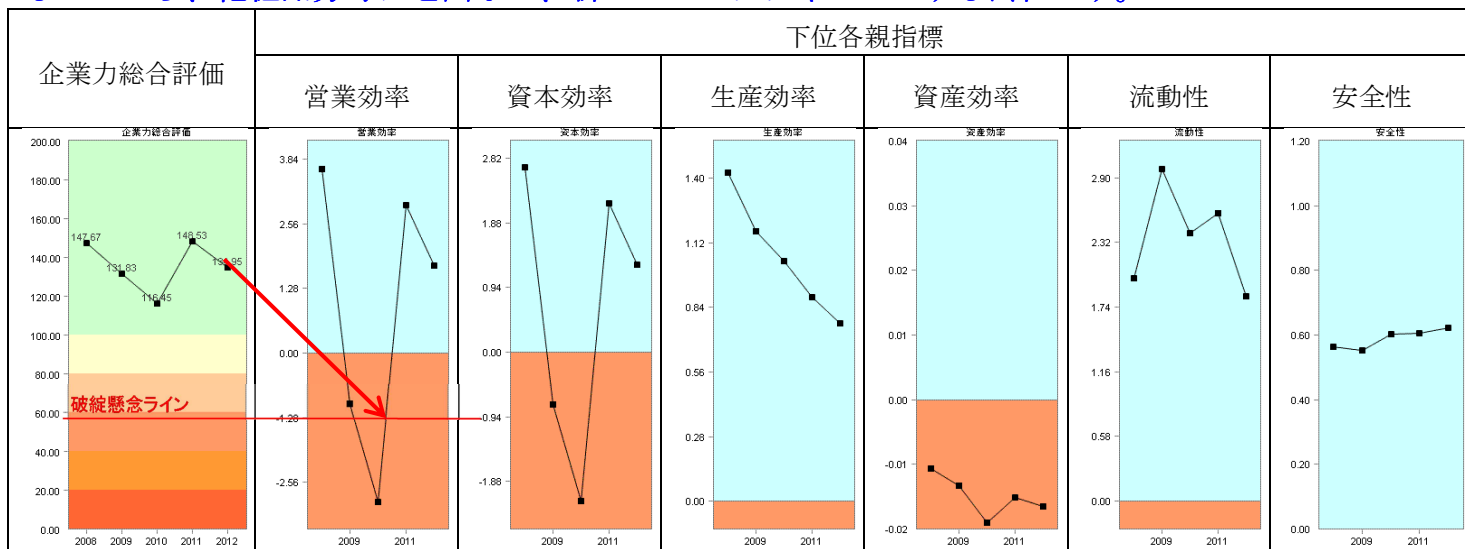


今回は、富士フィルムホールディングス株式会社を分析しました。1934年に写真フィルムの国産化を目指すため、大日本セルロイド社（現：ダイセル）の写真事業を分社して「富士写真フィルム株式会社」として設立されました。1962年には、イギリスのランク・ゼロックスと業務提携し、複写機メーカー・富士ゼロックス株式会社を発足、2006年10月1日からは純粋持株会社となりました。「町のお医者さん」と「総合病院」をITネットワークでつなぎ、地域医療ネットワークの広がりを描きながら、医師不足などの医療問題の解決策を構築し、また、フィルムの主成分がコラーゲンであることから、化粧品分野に進出など、新しいことにチャレンジする会社です。



企業力総合評価は、147.67→131.83→116.45→148.53→134.95と青信号領域を推移しています。2009年は悪化成り行き倍率（破たん懸念60点までの企業余命）が5年、2010年は4年、2012年は6年です。かなり、乱高下する会社です。

営業効率（儲かるか指標）・資本効率（資本の利用度）は、2009年2010年と悪化し赤信号領域でした。2011年2012年は青信号領域ですが、悪化トレンドの様相です。

生産効率（人の利用度）は、4期連続悪化トレンドです。ここに富士フィルムホールディングス株の問題があります。悪化が連続する時は要注意なのです。

資産効率（資産の利用度）は赤信号領域です。投資等を活発にするためでしょう。

流動性（短期資金繰り指標）は青信号領域です。

安全性（長期資金繰り指標）は、ほぼ天井値です。

総括すれば、財務体質は良く、投資等も活発であるが、営業効率が不安定で、生産効率に問題があるといえます。（上記 SPLENDID21 のグラフから読んでいますので、財務指標という定量分析から推察されること、と捉えて下さい。）

富士フィルムホールディングス株は以下の3つのセグメント事業を行っています。

イメージングS	主に一般消費者向け	カラーフィルム、デジタルカメラ、フォトフィニッシング機器、写真プリント用カラーペーパー・薬品等の開発、製造、販売、サービス
インフォメーションS	主に業務用分野向け	メディカルシステム機材、ライフサイエンス製品(化粧品含む)、医薬品、グラフィックシステム機材、フラットパネルディスプレイ材料、記録メディア、光学デバイス、電子材料等の開発、製造、販売、サービス
ドキュメントS	主に業務用分野向け	オフィス用複写機・複合機、プリンター、プロダクションサービス関連商品、オフィスサービス、用紙、消耗品等の開発、製造、販売、サービス
S:ソリューションの略		

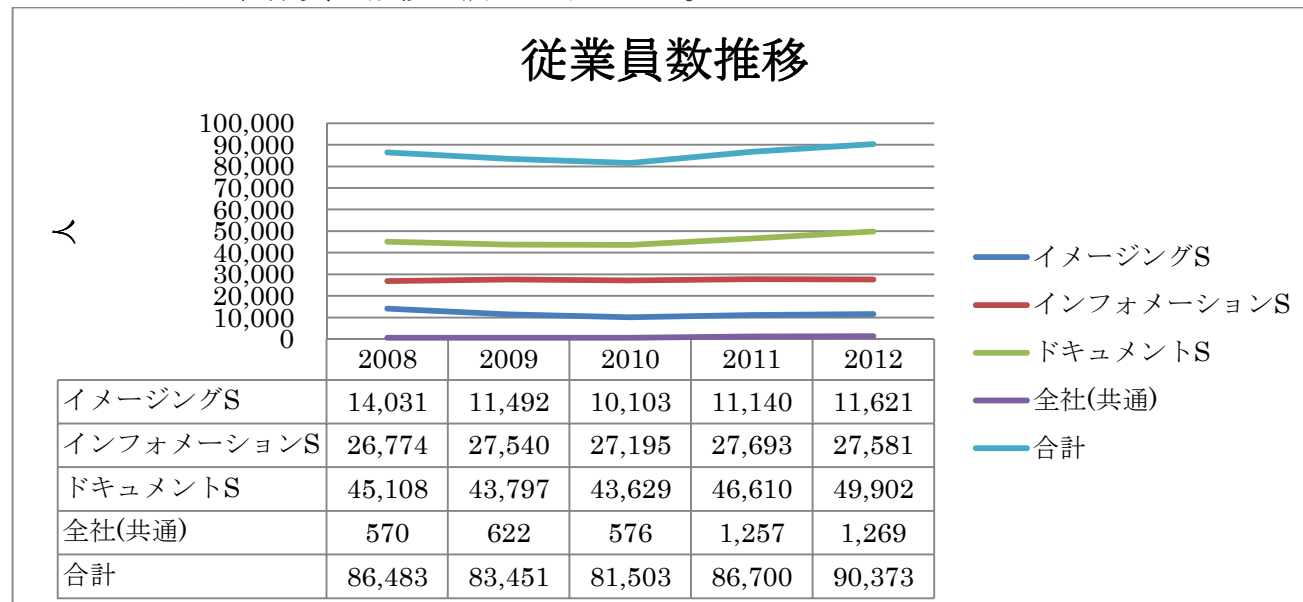
営業効率の各下位指標を見てみましょう。

		単位:百万円・%					
		2007	2008	2009	2010	2011	2012
売上高	イメージングS	605,383	547,066	410,399	345,489	325,804	322,706
	インフォメーションS	1,026,085	1,108,134	946,156	900,844	917,391	887,758
	ドキュメントS	1,151,058	1,191,628	1,077,789	935,360	973,889	984,829
	連結売上合計	2,782,526	2,846,828	2,434,344	2,181,693	2,217,084	2,195,293
イメージングS以外の売上高		2,177,143	2,299,762	2,023,945	1,836,204	1,891,280	1,872,587
営業利益	イメージングS	-42,631	-2,394	-29,310	-69,192	-12,693	-3,981
	インフォメーションS	95,170	127,432	20,351	-2,627	103,512	67,446
	ドキュメントS	61,186	86,664	49,677	32,240	74,213	81,814
	連結営業利益	113,062	207,342	37,286	-42,112	136,356	112,948
イメージングS以外の営業利益		155,693	209,736	66,596	27,080	149,049	116,929
全社営業利益率		4.06%	7.28%	1.53%	-1.93%	6.15%	5.15%
イメージングS以外の営業利益率		7.15%	9.12%	3.29%	1.47%	7.88%	6.24%

驚くべきことですが、イメージングSは、6期連続で赤字です。SPLENDID21NEWSの熱心な読者の方に説明は不要でしょう。

富士フィルムホールディングス株は国内売上46%、海外売上54%です。2006年4月から2012年3月の間に為替は113.83円から82.79円と27%も円高になりました。これは、日本の多くの企業に大きなダメージを与えました。

セグメント別の従業員の推移を調べてみました。



イメージングSの従業員数は、売上が48%減り、赤字であっても、2009年の減少以外は目立った減少は見られません。生産効率の悪化はこれが原因なのでしょう。

営業利益率の安定しているドキュメントSの従業員数を増やしています。

まとめ イメージングSは、6期連続営業損失です。創業事業にメスを入れ辛い例は、同社に限りませんが、企業のホコロビであることは違いありません。

